

宮島の自然散策マップ

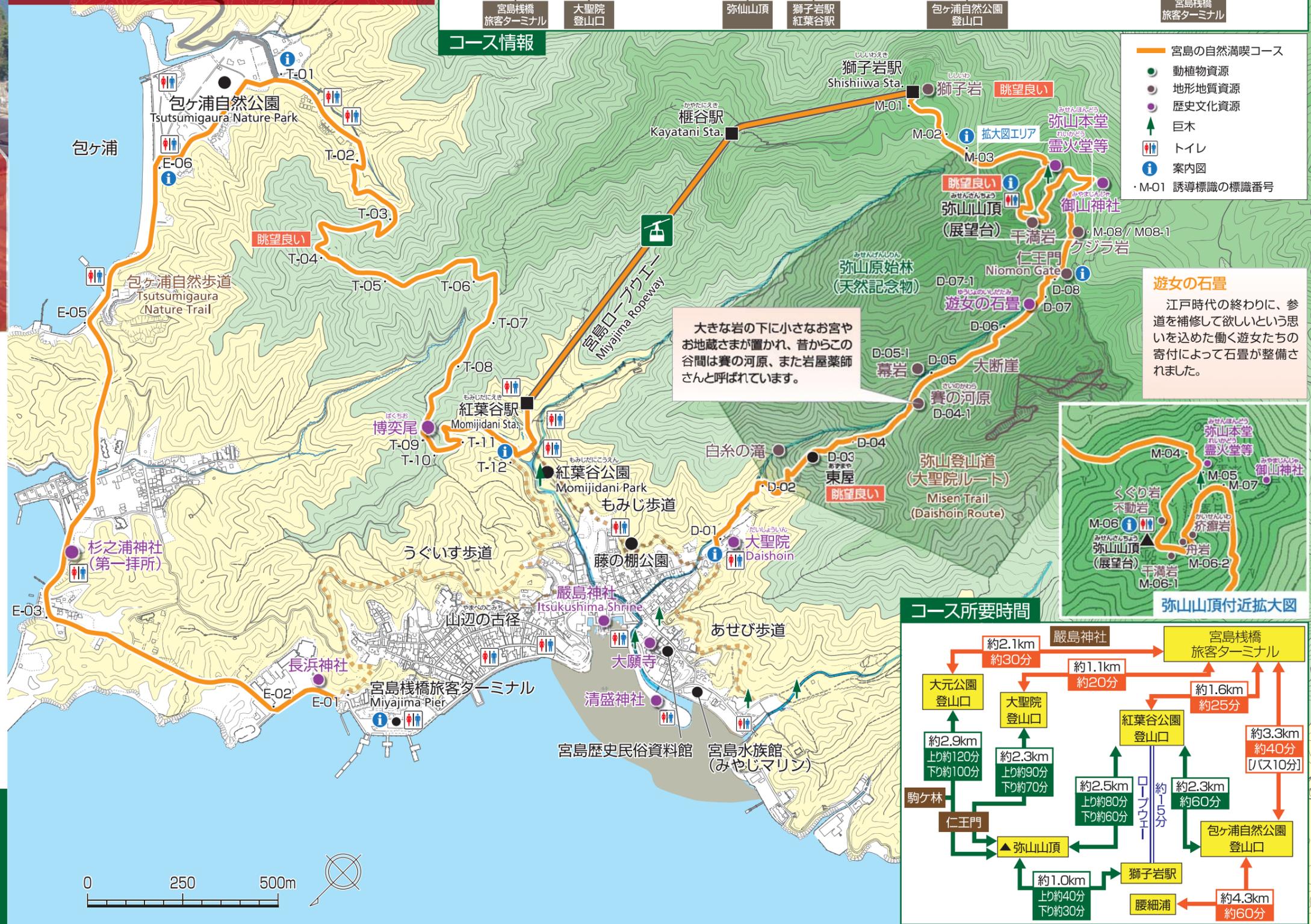
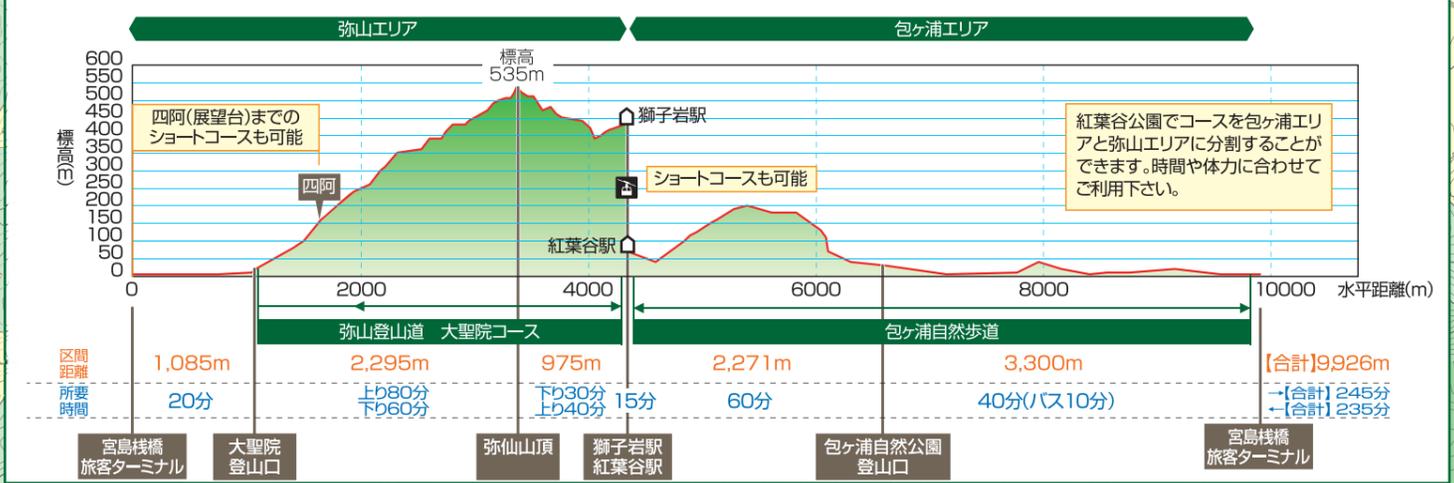
1 宮島の自然満喫コース 大聖院ルート～ロープウエー～包ヶ浦自然公園

1 宮島の自然満喫コース

大聖院コース～ロープウエー～包ヶ浦自然公園

宮島の海岸から山頂までの幅広い自然と、厳島合戦で毛利元就が辿った包ヶ浦や博奕尾などの歴史・文化も楽しめるコースで、宮島の魅力を幅広く満喫できます。

- 【距離】 合計 約10.2km
- 【所要時間】 約4～5時間
- 【難易度】 軽い登山レベル



コース情報

- 宮島の自然満喫コース
- 動植物資源
- 地形地質資源
- 歴史文化資源
- 巨木
- トイレ
- 案内図
- M-01 誘導標識の標識番号

遊女の石畳
江戸時代の終わりに、参道を補修して欲しいという思いを込めた働く遊女たちの寄付によって石畳が整備されました。

大きな岩の下に小さなお宮やお地藏さまが置かれ、昔からこの谷間は賽の河原、また岩屋薬師さんと呼ばれています。

ロープウエー・フェリー運行状況

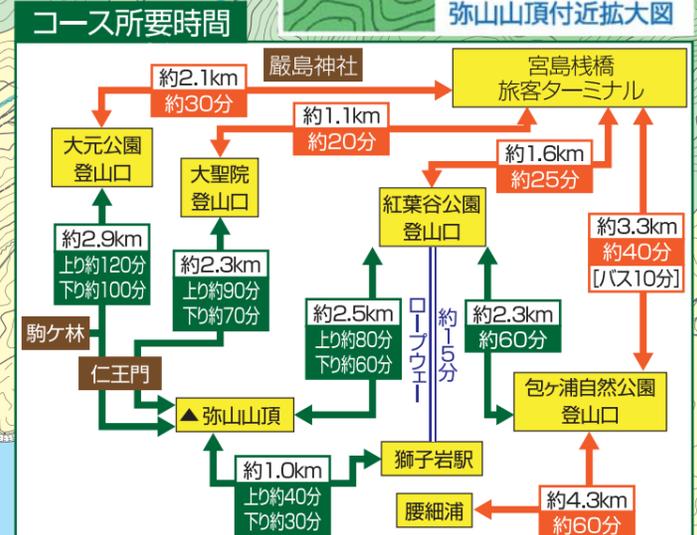
- 宮島ロープウエー運行時間** [運行間隔約15分]
 - 12月～2月 9:00～16:30(下り最終17:00)
 - 3月～10月 9:00～17:00(下り最終17:30)
 - 11月 8:00～17:00(下り最終17:30)
 - GW/お盆 8:30～17:30(下り最終18:00)
- フェリー運行時間** [運行間隔約15分(昼間)]
 - [宮島松大汽船] [JR西日本宮島フェリー]
 - 宮島口発 7:15～20:35 宮島口発 6:25～22:42
 - 宮島発 7:00～20:15 宮島発 5:45～22:14

※運行時間は平成25年3月31日現在のものです。ロープウエー・フェリーともに特別運行期間がありますので、詳しくはそれぞれの会社にお問い合わせください。

- モデルコースはほかにも
- 2 動植物観察コース 大元ルート～紅葉谷ルート
 - 3 地形・地質観察コース 大元ルート～紅葉谷ルート
 - 4 歴史・文化の体験コース 包ヶ浦自然公園
- があります。

マップは下記ホームページからダウンロードできます。

ホームページ
http://chushikoku.env.go.jp/nature/miyajima_guide_map/



1 [宮島の自然満喫コース]のみどころ

宮島の自然満喫コースは、弥山登山道の「大聖院ルート(大聖院～弥山山頂)」、宮島ロープウエーを経て、「包ヶ浦自然歩道」を歩きます。海と山の両方を体験できる贅沢なコースです。

大聖院ルートの動植物

大聖院ルートは、天然記念物「弥山原始林」の中央を貫く登山道で、古くから主要な参道として、利用されており、最も眺望が良いルートです。弥山原始林では、ツガ、モミ、アカマツ、スギなどの常緑針葉樹の大木やアカガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、クロバイ、シキミ、ヤブツバキ、ハイノキ、シロダモ、アセビなどの常緑広葉樹など様々な植物が見られます。幕岩とよばれる大岩壁には、最近まで野生蘭が多く自生していましたが、土石流などによって今では見ることができなくなりました。夏季には溪流沿いや林内で、オオルリやキビタキ、標高が上がるとカッコウやホトトギスなどのさえずりも聞くことができます。

大聖院ルートの歴史(弥山道)

大聖院ルートは、慶長四年(1599)に、毛利輝元が弥山神護神大日堂を再建すると共に十八丁の参拝道も併せて整備されたといわれています。明治三十九年(1906)には、多くの人々が弥山の史跡や瀬戸内海の景観を手軽に楽しむことができるように、伊藤博文公が莫大な私財を投じて二十四丁の道程に大改修しました。「大聖院表参道」や「みせん道」とも呼ばれ多くの利用者に親しまれています。

コース上の主な自然資源

白糸の滝



高さ14mから流れ落ちる滝は、決して水量が多いわけではありませんが、白い絹糸が流れ落ちているように見える美しい滝でした。かつて夏には無数の蛍が飛び舞っていたため、「滝宮水螢」として「厳島八景」の1つに数えられており、和歌や俳句などにも詠われています。

「雲井より落ちくる瀧のみやまに 星とみだれて飛ぶ蛍かな」忠敬
平成17年の土石流災害で残念ながらその美しい滝の姿は大きく変わってしまいました。

幕岩



石段を登る途中、目の前の高さ30m、長さ150mの巨大な岩盤が広がります。幕岩と名付けられ、正に劇場の舞台に張られている緞帳によく似ています。

ツガ林



ツガ林は天然記念物「弥山原始林」の中心をなしています。日本列島の垂直分布から見ると、ツガ林は中間帯に属し、宮島では弥山、駒ヶ林、岩船岳などの海拔400m以上の地域に分布しています。

弥山山頂



弘法大師空海が開基したと伝えられる霊峰・弥山の山頂(標高535m)からは、「宮島の真価は弥山の頂上からの眺めにあり」と伊藤博文が名言をのこしたほど美しい大パノラマが広がります。山頂付近には、くぐり岩、不動岩など奇岩・巨石がみられ、弘法大師ゆかりの諸堂が点在しています。

【干満岩】

舟岩のすぐ上で弥山の山頂からは西に少し下った所に、穴のあいた大きな岩があります。穴は直径10cmくらいで中には水が入っており、満潮の時には溢れ、干潮の時には乾き、塩分を含むと伝えられる不思議な穴です。穴の周りには小さな晶洞が並んでいることから、この穴も晶洞の一つと考えられます。

【舟岩】

大日堂から少し登ったところに、地藏尊が祀られた舟の形によく似た岩があり、舟岩と呼ばれています。岩の上には雑木が生えて、それが帆のようにも見えます。この奇妙な形の岩は、崖の表面が玉ねぎ状風化でまるくなった後、崖からはずれて落ちたものと考えられます。

宮島を自然散策するときのルール

宮島は、全島が国立公園の特別地域で、特別史跡及び特別名勝にも指定されています。また、弥山原始林は天然記念物に指定され、その周辺一帯の国立公園特別保護地区内では、動植物や岩石の採取、焚き火などが禁止されています。宮島の希少な自然をいつまでも残していけるよう、利用ルールを守りましょう。



白糸川・白糸川溪流砂防事業



平成17年9月の台風14号で、白糸川上流の駒ヶ林の山腹斜面が崩壊し、大規模な土石流が発生しました。この土石流により、大聖院をはじめとした多くの文化財が被災しました。復旧のための砂防工事では、現地発生した石材や掘削土を骨材として使用する工法など、地形の改変や周辺環境への影響を最小限に抑え、宮島らしい景観に配慮した整備を行いました。工事は平成20年10月に完成し、弥山登山道・大聖院コースも約3年ぶりに開通しました。

博奕尾



1555(弘治元)年9月晦日(30日)の夜、包ヶ浦に上陸した毛利元就は、翌10月1日未明、目の山を越え陶軍の背後にある博奕尾に登りました。元就は「博奕うつもの、この戦いはもはや打ち勝った!」と兵士を励ましたといわれています。

早朝、まだ陶軍が戦の準備をしていないスエの本陣を急襲しました。こうして日本三大奇襲戦の1つといわれる「厳島合戦」の幕が切って落とされました。

包ヶ浦自然歩道の動植物



博奕尾から包ヶ浦までの尾根沿いでは、アカマツ、ヤマモモ、クスノキ、コシダ、ウラジロなどの日当たりの良い場所に生える植物が多くみられます。谷部などのやや暗い場所では、コジイ、アラカシ、タラヨウ、ミズバイなどの常緑広葉樹林がみられます。

町(丁)石

弥山までの道のり(弥山堂)に古くから設置されている石の道標です。かつては山頂を二十四町(丁)として、1町(丁)=約109mごとに設置されていました。最も古いもので慶長4年(1599)年の銘が残されています。

コースの利用にあたっての注意

- 所要時間は、40～50歳の登山経験者が少人数で、日帰り登山程度の装備にて、晴天時に歩いた場合を想定しています。自然観察や見学、観光、休憩等の時間をふくまないので、目安程度にご活用ください。
- 日没後は非常に危険です。ロープウエー等の交通機関の運転状況や最終時刻などを確認し、日没3時間前には下山するようにしてください。
- 全コースで登山道を歩きます。ハイキングや軽い登山レベルのコースでも、登山に向いた服装や靴を使用し、非常食や飲み物などを携帯してください。
- 危険な生きものに注意してください。(毒ヘビ、スズメバチなど)

宮島の代表的な自然環境

宮島の動植物

国の天然記念物に指定される弥山原始林、低地には珍しいモミ自然林、沿岸部の海浜植生や塩沼地植生、そしてそこにしか生息しないミヤジマトンボなど、希少で多様な動植物が生息・生育しています。また、宮島のいたるところでシカが生息しています。野生生物ですので、エサを与えず優しく見守りましょう。

宮島の地形・地質

地形は急峻で、奇岩や巨岩などが点在します。地質は花崗岩が主体で、球状風化、方状風化等の風化現象、海食洞、海食甌穴等の侵食現象が多くみられます。海岸部は、風化したマサ土による砂州や砂浜、干潟や磯浜、潮汐湿地など、変化に富んでいます。

宮島の歴史・文化

世界遺産である厳島神社をはじめ、弥山、大聖院、大願寺など、多くの神社寺院・史跡等があります。宮島外周部の7つの浦に神様が祭られているほか、厳島合戦の古戦場なども島に点在しています。

厳島神社(世界文化遺産)



宮島厳島神社は、平成8年に世界文化遺産に登録されました。潮の干満を利用した神社の設計は国際的にも例がなく、建造物と自然が一体になった価値の高さが評価されました。

弥山原始林(国の天然記念物)



国の天然記念物に指定されている「弥山原始林」は、針葉樹に南方系の植物が混在する森で、ヤマグルマなどの原始的な植物を自然の状態で見ることができる貴重な場所です。

ラムサール条約登録湿地とミヤジマトンボ



ミヤジマトンボは、環境省と広島県の絶滅危惧I類に分類され、国内では宮島に唯一生息しています。生息地である宮島の南西部沿岸域が、平成24年7月にラムサール条約に登録されました。

モミ自然林(大元公園)



モミは冷涼な山地を好む針葉樹で、海岸に生育することは極めてまれです。大元公園一帯には、モミ、ツガ、カヤなど冷涼な山地に生育する針葉樹が海岸近くに自生しており、植物学上とても貴重です。

七浦神社(厳島神社末社)



弥山を常に右にみるように宮島の外周約30kmを舟で廻って、七浦に祀られてある神社(厳島神社末社)に祈願する「七浦めぐり」が古くから行われています。

海辺の生き物



宮島には、干潟や磯浜、潮汐湿地等の多様な自然海岸が残されています。特に厳島神社から大元公園までの大きな干潟には、様々な貝やカニなどが生息し、観察に適しています。